

別府港 石垣地区 旅客対応ターミナル整備事業



国際クルーズ船の寄港増加に対応するとともに、大規模地震発生時には海上からの緊急物資受入れを確保するため、第四埠頭に水深10mの耐震強化岸壁を整備し、別府地域の防災拠点として平成23年3月より供用を開始しています。現在は国際クルーズ船の航行安全性を高めるため防波堤の整備を推進しています。



第四埠頭

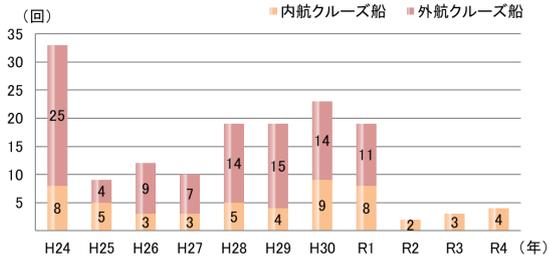


防波堤工事の様子



旅客船（クルーズ船）の寄港

■クルーズ船寄港回数の推移



クルーズ船の接岸状況



クルーズ船の寄港時の様子①



クルーズ船の寄港時の様子②

人の流れの基幹拠点

大分県では、平成27年10月に策定した長期総合計画「安心・活力・発展プラン2015」を踏まえ、平成29年3月に「九州の東の玄関口としての拠点化戦略」を策定し、別府港を人の流れの基幹拠点と位置づけています。

また、平成31年3月には、フェリー大型化に対応した埠頭再編計画や、賑わい拠点の形成を図る空間再編計画等が港湾計画に盛り込まれ、利便性の向上や、賑わい空間の創出に向けた整備に期待が寄せられています。

別府港港湾計画図（石垣地区拡大図）

